

在宅ケアを問いなおす Part - I

家族介護による在宅ケアの再考を

—在宅ケアは介護者の多様性がカギ—



現代日本における介護問題は、超高齢社会を迎えていくなかでは避けて通れない課題である。しかしながら“介護”を家族に担わせるのが当然であるという風潮が、いまだ存在していることは否めない。

今回の座談会は、老いて死んでいく犬と、その犬を介護する夫婦を描いた『犬を飼う』（谷口ジロー作・小学館）という劇画が発端となった。座談会には、在宅介護に長年深くかかわってこられた方々に、今一度、在宅ケアを問い直し、意見を交わしていただいた。

出席者

岡本 祐三氏	(阪南中央病院内科医長)
松尾美由起氏	(松尾クリニック院長)
宮田さよ子氏	(京都在宅ケア研究所所長)
向井 承子氏	(ノンフィクション作家)